

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第7回 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成27年11月17日(火) 午後7時15分 ～ 9時15分
開 催 場 所	市役所3階 301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員5名 欠席者：谷津副会長、内野委員
議 題 等	1 報告 (1) 第6回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について 2 議題 (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告 (1) 第6回推進委員会の会議要旨について承認 2 議題 (1) 今回の推進委員会の意見は、できるものについては最終的に総合戦略に反映させる。 (2) 来年度は総合戦略の検討を行う予定である。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告 (1) 第6回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について (事務局) 第6回会議要旨を用いて第6回会議の概要について説明 <結論> ・第6回推進委員会の会議要旨について承認する。 2 議題 (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について (事務局) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について説明 —質疑・意見等— (委 員) 人口推計が何パターンかあるが、結局市が目指す人口はどれか。 (事務局) 将来展望に掲げている人口推計である。労働力人口が減らず、年少人口も徐々に増えていくものである。 (委 員) 合計特殊出生率が平成37年に1.9というのはすごい上げ幅である。 (事務局) 平成26年が1.38だが、平成37年までかけて1.9まで上昇し、その後維持する条件での推計である。 (委 員) 現実を考えて、出生率を抑える自治体もある。国は平成72年までに2.07まで上げる設定をしているが、東京都は他の道府県に比べて出生率が低い中であって、東京都の自治体が2.07に近づけることができるのか疑問である。達成できればすごいことである。 (事務局) 国の前提として、平成72年に1億人の人口を維持するというものがあり、同時に東京圏の人口一極集中の是正をうたっている。東京圏は自然増で人口増を目指すしかない。合計特殊出生率を1.9に設定したのは、アンケ

	<p>ート結果の予定子ども数1. 86人、平均理想子ども数2. 36人を勘案してのものである。</p> <p>国の目標が、平成42年に1. 8、平成72年に2. 07であるのなら、市の目標も最終的に2. 07にしてもよいかもしれない。</p> <p>(委員) 子ども数ゼロの人も多いので、そこを減らすことも大切である。</p> <p>(事務局) 実際の子どもの人数が、理想の子どもの人数より少ない理由について、アンケート結果では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という理由が他を抜き出で多い。子育て施策を充実することが、子どもの数が増えることにつながりうるということであろう。</p> <p>(委員) 合計特殊出生率を1. 9に上げるために、子育て施策に力を入れている戦略になっているか。</p> <p>(事務局) 基本目標2に記載しているものが主なものである。経済的な支援というと、3人目以降の保育料の無料化、医療費助成制度がある。どういうところにお金がかかるのかを聞いてみたい。</p> <p>(委員) 合計特殊出生率が目標を達成した場合、小中学校のキャパシティは大丈夫なのか。</p> <p>(事務局) 絶対数はそこまで増えない。</p> <p>(会長) 保育所はまだしも、学童クラブは今でも待機児童がいるのに、どうになってしまうのか心配である。</p> <p>(事務局) 児童館ランドセル来館事業は実施している。</p> <p>(会長) 合計特殊出生率が1. 9になったら子どもの数はどれくらい増えて、その子どもたちを受け入れるための施設は今のままで足りるのか。受け入れる施設さえあれば子どもを産みたいと思っている人がいるかもしれない。</p> <p>(事務局) 150人くらい増えると思う。</p> <p>(会長) 産んでも受け入れてくれているところがなければ、産む人は少ないのではないか。しかし、施設側からしたら効率は悪い話になってしまう。</p> <p>各学年の子どもが何人くらい増える試算になるのか。</p> <p>(委員) 他市では合計特殊出生率が0. 1上がるだけでも、現在受け入れる施設がないので再考しようという話もあった。</p> <p>(事務局) ここ何年かの出生数は500～600人である。推計の細かい数字は今持っていない。</p> <p>(委員) 合計特殊出生率1. 9はとてもインパクトのある数字なので、どうやってここまで上げるのか、きちんとした説明が求められると思う。1. 9を変えた方がよいとは言わないが、現実的な数字であるのかが疑問である。</p> <p>(委員) 基本目標2の施策がしっかりしたものでないといけない。</p> <p>(委員) 基本目標2の施策では特に目玉となるものがない。自然的に上がっていくものではないので、施策を検討していくしかない。</p> <p>(委員) 総合計画との整合性はとれているのか。</p> <p>(事務局) 基本はとれている。現在、総合計画と総合戦略を同時に作成しているので、双方で整合性をとりながら進めている。</p> <p>(委員) 基本目標2は「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」というものだが、結婚に関する施策は出てこ</p>
--	---

	<p>ない。出生率を上げるために結婚が前提にあるなら、結婚の希望をかなえる施策を入れた方がよいのではないか。</p> <p>(事務局) 市として結婚の希望をかなえる施策は打ちづらい。結婚しない理由で多いのは、経済的理由が多い。</p> <p>(会長) 突き詰めていくと経済的理由で結婚ができず、出産もできないということになる。どうやって収入を上げていくかという話になる。就労の場をいかに確保していくか。</p> <p>(委員) 婚活支援をしている自治体もある。</p> <p>(事務局) 若年層で非正規雇用が増えていることも要因の一つであろう。市は何ができるか。</p> <p>(委員) 基本目標1で市の産業を盛り立てて、市内で働ける人を増やして、市内で働けると市内で子育てがしやすくなるという流れになる。市としても市内で創業等する人が増えた方が増収にもなる。</p> <p>(委員) 市内に駅がないので、職住近接の話は、他自治体よりも危機感をもって対応していくべきではないか。住んでいるところは職場環境と密接につながっている。</p> <p>(事務局) 通学・通勤において、駅が市内にあるかどうかはそこまでは問題ではないのではないか。</p> <p>(会長) アクセスを考えると、コアになる場所が市内にない。</p> <p>(事務局) 最寄駅にバスを乗り入れさせたくても、駅が市内にないと、市の施策としてできず、他市頼みになってしまう。</p> <p>(委員) 「武蔵村山ならではの」施策がほしい。</p> <p>(委員) 逆転の発想で、市内で何でも完結するくらい思い切ってもよかったかもしれない。</p> <p>(委員) 女性のチャレンジ支援について、目標がネットワークづくりになっているが、創業した人には支援があるなどを書かないとあまり意味がない。セミナーに参加しても実際に創業する人がいなければ何もならない。</p> <p>(事務局) 今年度から始めた事業であるので、踏み込んだ目標設定が困難であった。</p> <p>(委員) 「女性の創業を応援するまち武蔵村山」を掲げて、女性が市内で働ける場をつくれれば、子育てもしやすくなる。世帯収入が上がり、よい循環になるのではないか。</p> <p>(事務局) 個別ではなく、うまく回るような仕組みづくりが大切ということであろう。単にセミナーの参加者を増やすのではなく、次のステップに進む人への支援をしていくことか。</p> <p>女性の創業支援が、必ずしも女性の雇用を増やすわけではないのではないか。</p> <p>(委員) それはそうであるが、働き手が不足している中で、男性と比べて女性の方が就労していない人数が多いので、女性の創業支援によって女性の就業率は上がると思う。</p> <p>(委員) 子育てをしながら近くで働ける環境はとても大きい。</p> <p>(事務局) 近年創業した人で、どれくらいの割合の人が従業員を雇用するまでの規模にしているのか。</p> <p>(委員) 創業支援は、3年後にそのまま創業者として残っているのは3人に1人の割合である。最近では「プチ創業」をする人が多くいる。自宅で一人でやっている個人事業主も含める。従業員が何十人もいるような規模の企業に限定すると、また少なくなる。</p> <p>雇用の問題として市が考えるのであれば、市内の中堅・</p>
--	--

	<p>大企業と組んでいくべきである。創業者で市内従業者を増やすのは厳しい。女性の社会進出やコミュニティビジネスのようなまちのために何かやりたいとする人たちが創業してくれると、市役所の手が行き届かない市民サービスや住みやすさをカバーしてくれることにつながりうる。そういう人たちを発掘するためには、まさにウィメンズチャレンジプロジェクトは打ってつけだと思われるし、将来的に大企業になる可能性は低いが、一人一人がもっているネットワークをつなげることで生まれるパワーがあると思う。創業支援はそういう部分の支援と考えている。雇用を増やすのであれば、市内にある企業をあたっていった方がよい。労働人口が減っている中では、若者・女性・シニア・外国人を動かさないと、人手不足となる。</p> <p>(事務局) 市内の企業とのつながりをもちつつ、創業支援等のいろいろなチャンネルをもつことが必要で、何を一つやればよいというものではない。</p> <p>(委員) 新規事業者の支援もやるべきだし、既存企業との連携もしていかなないと、複数人創業しても、大きな企業に市外に出て行ってしまわれたら大量に雇用が失われる。</p> <p>(事務局) 基本目標1の施策にもあるように、市内事業者に市に市にとどまってもらうかが大切である。</p> <p>(委員) 市にある大きな企業とのつながりを強めた方がよい。ある市では企業誘致をさかんに行っている。市の施策としても打っていて、全国的に企業を誘致する取組をしている。そういう魅力的な施策を行っているところに誘致されてしまう恐れもある。何もしていないのは東京都くらいではないか。</p> <p>(委員) 地方活性化には、大企業誘致や観光が大切であると言われる。武蔵村山市は、それらと全く関係ないところで施策を打った方がよいのではないかと。都内だけ農業ができて自然があるようなものを売りにしてはどうか。</p> <p>(委員) 企業誘致をしなくても、今市内にいる企業は他に抜かれないようなつながりをもっておいた方がよい。新しく増やすよりも減らさないように、双方の距離間を縮めてようとしている自治体は多い。</p> <p>(事務局) 首都近郊は、それなりに働く場所もあり、生活基盤もあり、極端に課題とされる部分が少ないように思われる。</p> <p>(委員) 特色が出しづらい。それなりに商工業もあり、農業も自然もあるが、特にメインとなるものがない。良く言えば何でもできる、悪く言えば中途半端というところか。</p> <p>(委員) 「田舎だけど東京」という部分が売り出すポイントではないか。</p> <p>(委員) 結局総花的になってしまうのは、市の状況を見て、いろいろなことができるから、その分課題が出てくるということだと思う。今回の素案では、それが大分しぼられているのであろうが、この先に何かあるのかというのがある。</p> <p>(委員) ある市の総合戦略はとてもわかりやすい。キーワードがしぼられていて、国の基本目標とも異なる独自の視点を打ち出している。見せ方もうまい。元々、市での構想はあったと思う。</p> <p>(事務局) 人工的につくられたまちで、課題が明確化していること</p>
--	--

	<p>もあるだろう。</p> <p>(委員) 村山団地の高齢化率は40%を超えている。そういう部分を戦略に入れてもよかったかもしれない。</p> <p>(委員) そういう環境で生まれるビジネスを支援するような施策があってもよい。</p> <p>(委員) 基本目標2の具体的施策1(3)の主な事業で、「絵本の読み聞かせ事業」の目標値が、400人/年となっている。元々は200人/年であった。現状、1回あたり10～15人ほどであり、スペースからしても増やすのは厳しいと思われる。1日2回実施しているが、人が入れ替わるわけではない。あと、図書館のおはなしの会の目標値は低いのではないか。</p> <p>また、「児童館の子育て支援拠点化の推進」の目標値1か所とするのは疑問である。児童館の午前中の利用者が比較的少ないのは承知しているが、児童館は人が来ないから遊ぶ物を出していないという話であった。遊ぶ物が出してあれば必然的に人が集まってくると考える。周辺自治体で実例がある。できれば全区の児童館でやってほしい。おもちゃ等は貸すこともできる。</p> <p>(委員) ウィメンズチャレンジプロジェクトのセミナー参加者数の目標値が120人/年となっているが、達成は難しい。担当者レベルでは、50～60人で大成功である。目標値が起業者数の方がよかった。</p> <p>(委員) 「ネウボラ」と女性管理職への登用の施策が削られているのはどうしてか。</p> <p>(事務局) 「ネウボラ」は、言葉自体が浸透しておらず、かえってわかりづらくなってしまっているのではないかという意見があった。女性管理職への登用は、301人以上の労働者を雇用している事業者で女性活躍推進に向けた行動計画を現在策定中であり、それと合わせる必要があるため、その計画に載せることにした。時間的に間に合えば、総合戦略に載せてもよいと考えている。</p> <p>(委員) 「ネウボラ」は載せている自治体はある。言葉が引っ張る部分はあるので、使った方がよいと思う。</p> <p>(事務局) 北欧で言う「ネウボラ」とは、異なるものだからという理由もあった。</p> <p>(2) その他</p> <p>(事務局) 本日いただいた意見は、最終的な確定に当たって、できるものは反映していきたい。</p> <p>今後の予定としては、明日の本部会議で素案の決定をして、12月にパブリックコメントを行う。2月頃に議会等に報告をして、最終的には3月に決定・公表予定である。来年度は推進委員会に検証をお願いする。会議は年2～3回の予定である。</p>
--	---

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 () </p> <p style="text-align: right;">傍聴者： <u> 0 </u>人</p>
-------------------------	---

<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：) </p>
--------------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>企画財務部 企画政策課(内線：374)</p>
--------------	----------------------------

(日本工業規格A列4番)